

第2回戸塚環境センター施設整備基本構想基本計画審議会 議事概要

■開催日時

平成28年10月18日(火) 13時30分から17時30分まで

■開催場所

戸塚環境センター2階 研修室

■出席者

1 委員

(1) 市民

谷田部千春委員、小坂久仁子委員

(2) 民間団体から選出された者

石川義明委員、富田龍一郎委員、細野博隆委員、稲垣寛行委員、関延子委員、
勝山健治委員、中山康委員、木村俊夫委員

(3) 知識経験者

稲川和成委員、幡野茂委員、板橋博美委員

(4) 学識経験者

濱田雅巳会長、橋詰博樹副会長

※欠席者なし

2 事務局

環境部長、廃棄物対策課長、環境施設課長他6名、戸塚環境センター所長、
公益社団法人全国都市清掃会議1名、株式会社エックス都市研究所3名

■公開非公開の別

公開

■傍聴者の数

2名

■次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 議事

- (1) 戸塚環境センター施設整備基本構想の構成について
- (2) 施設整備にあたっての基本的な考え方について
- (3) 施設整備の現状と課題について
- (4) 戸塚環境センター視察
- (5) その他

4 閉会

■会議資料

- | | |
|------|----------------------------|
| 資料1 | 戸塚環境センター施設整備基本構想の構成（案） |
| 資料2 | 施設整備にあたっての基本的な考え方について |
| 資料3 | 施設整備の現状と課題について |
| 参考資料 | ごみ処理施設整備に係る現状と課題に係る基礎資料（案） |

■審議経過

別紙のとおり

審議経過

1 開会（13時30分）

2 会長あいさつ

- ・会長よりあいさつがあった。
- ・環境部長よりあいさつがあった。

3 議事

【議 長】

今回の議事録の署名は、小坂委員と富田委員にお願いする。

(1) 戸塚環境センター施設整備基本構想の構成について

【事務局】

- ・資料1に基づき説明

【議 長】

事務局案のとおりでよいか。

【委 員】

（異議なし）

(2) 施設整備にあたっての基本的な考え方について

【事務局】

- ・資料2に基づき説明

【委 員】

戸塚環境センター周辺施設の建替え等を検討しているか。

【事務局】

厚生会館は更新が必要と考えている。また、旧職員住宅は収集車の車庫用地又は収集事務所として検討中である。

【委 員】

会館も古くなっているので、更新をお願いしたい。

【委 員】

資料3の第3章1-4に資源・エネルギー循環への配慮とあるが、生ごみを燃焼するだけでなく、バイオガス化や堆肥化し、燃やすごみを減らしてはどうか。

【事務局】

資源化するには分別が必要であり、まずは排出段階で生ごみを減らすことが必要であると考えている。処理方式について改めて検討する。

【委員】

資料2の1ページに「安全で安定した処理」とあるが、「安定した処理」とは計画した一定量を持続的に処理できるという理解で差し支えないか。また、廃止後の西棟についてどのように考えているか。

【事務局】

「安定した処理」はご理解のとおりである。「安全な処理」とは排ガスなどの基準値を遵守するという意味である。

西棟の廃止後は、現状では未定であるが、将来の用地として重要であると考えている。

【委員】

資料2の4ページに「3施設体制とする必要はなく」と明記されているが、これは議論を経て3施設とする必要はないと判断されたのかどうか確認したい。

【事務局】

事務局案として提示したものである。ごみ量は人口の減少傾向に伴い微減傾向を示すと考えられる中で、現状2施設で対応できている中、新たにもう1施設は必要ないと考えている。

【委員】

資料2の6ページに記載の焼却残渣の処分について、現在川口市では焼却残渣は朝日環境センターで熔融スラグ化又は最終処分場への埋め立てを行っているが、セメント原料化は現実的な方策となり得るか。

【事務局】

スラグ化を基本と考えているが、幅広い処理方法の検討が必要と考えており、セメント原料化の価格等を含め、実現可能性を検討したい。

【議長】

セメント原料化を県が主導で行っている事例もある。川口市周辺で需要があるかは確認が必要であるが、セメント原料化は十分検討の余地があると考えられる。

(3) 施設整備の現状と課題について

【事務局】

- ・資料3に基づき説明

【委員】

参考資料として、朝日環境センターと戸塚環境センターに搬入している川口市内のごみの収集範囲を示した地図を頂きたい。また、事故等不測の事態が発生した場合に、近隣自治体とのごみの処理に関する提携はあるのか。

【事務局】

収集範囲の資料は、担当課に確認し、次回審議会にて提示したい。不測の事態のごみ処理に関して、埼玉県内の全市町村、清掃に係る一部事務組合及び埼玉県で埼玉県清掃行政研究協議会を組織している。同協議会にて緊急時には互いの施設を活用し、協力してごみ処理にあたる協定を結んでいる。実際に川口市のごみを他市で処理してもらった、また他市のごみを川口市で処理した事例もある。

【委員】

朝日環境センターでは売電を行っているが、新焼却処理施設でも売電を行って欲しい。

【事務局】

現在の戸塚環境センターでも売電しているが、新焼却処理施設においても売電は実施したいと考えている。

【委員】

資料3の3ページに環境学習施設や余熱利用施設について記載があるが、こちらは現在朝日環境センター同様、ごみ処理施設内に環境学習施設や余熱利用施設が設置されるという認識で良いか。

【事務局】

基本的にはそのようなイメージで良いが、施設の規模や用地の問題、経済性等を含め検討したい。

【委員】

戸塚環境センターでは環境基準値はクリアしているようだが、現在までに近隣住民から苦情等が来たことはあるか。

【事務局】

臭気による苦情はない。騒音について、破砕音に対する苦情が時おりある程度である。

【委員】

環境基準をただクリアするだけでなく、日本一厳しい基準を遵守する施設にして欲しい。

【事務局】

安全で安心な施設づくりを目指す。経済性も考慮して進めていきたい。

【委員】

資料3の3ページに「地域防災拠点化」とある。北部の代表的避難所としてぜひ新施設にはそのような機能を求める。

もう一点加えると、日本一経済性の良い施設となるよう期待している。

【事務局】

「地域防災拠点化」に対する市の認識は、避難所的機能ではなく、非常時にも止まることなくごみ処理ができ、かつ電気や熱のエネルギーを供給できるといった機能を備えた施設ということを考えている。ご意見として受け取り、検討する。

【委員】

参考資料の14ページに平成34年度のリサイクル率の目標値が35%となっているが、今後具体的にリサイクル率を向上させる施策はあるか。

【事務局】

リサイクル率は重量により算出されるが、大きな割合を占める紙の排出量の減少、集団回収の増加、製品の軽量化による重量の減少によりリサイクル率が下がっているのが現状である。リサイクル率を向上させる施策としては、可燃ごみ中の資源の分別となるため、分別の徹底のための啓発を行っていく。

【委員】

全ての搬入物を把握し不適物を取り除くことが出来る施設が望ましいと考えている。また不適物が減れば、残渣の重金属量が減少し、処理コスト減少にもつながると考えている。

【事務局】

現状、投入扉前などで監視はしており、小型家電等は取り除いている。また、全てのごみを把握することはできないが、定期的な抜き打ち検査は行っている。技術的に可能かどうか検討し、可能であれば対応することも考えたい。

【議長】

設備をどうするかということと同様に、搬入者を啓発するというソフト面の対策が重要である。新施設では水銀の規制が厳しくなるが、水銀対策は投入しないことにある。

【副議長】

川口市でごみ量やごみ質などに影響を与えそうな、有料化などの施策の実施は検討しているのか。

【事務局】

有料化については基礎的な研究に留まっており、具体的なスケジュール

は未定である。今後、一般廃棄物処理基本計画の改訂の際に議論になると考えている。

【委員】

第1回の審議会でも課題を挙げていたが、現状と課題についてもう少し明確な記載をしてほしい。

【事務局】

次回、今回出た意見を踏まえて具体的内容とできるか検討する。

【委員】

現在放射性廃棄物の問題もある。放射性廃棄物の保管・処理についても考慮する必要があるのではないか。

【事務局】

川口市には放射性廃棄物の保管は無い。対策が必要かどうか検討する。

【議長】

資料作りについて、委員が課題を認識しやすいものに変えていく必要がある。

【事務局】

もし意見があれば、10/21（金）までに事務局に提示してほしい。

(4) 戸塚環境センター視察

・戸塚環境センターの視察を行った。

(5) その他

【事務局】

・埋設廃棄物等調査及びさいたま市桜環境センター行政視察について説明

【議長】

全体を通じて委員から何かあるか。

【委員】

(なし)

4 閉会（17時30分）

会議の概要については、以上のとおりです。

平成28年11月16日

戸塚環境センター施設整備基本構想基本計画審議会

会 長(濱田会長署名).....

委 員(小坂委員署名).....

委 員(富田委員署名).....